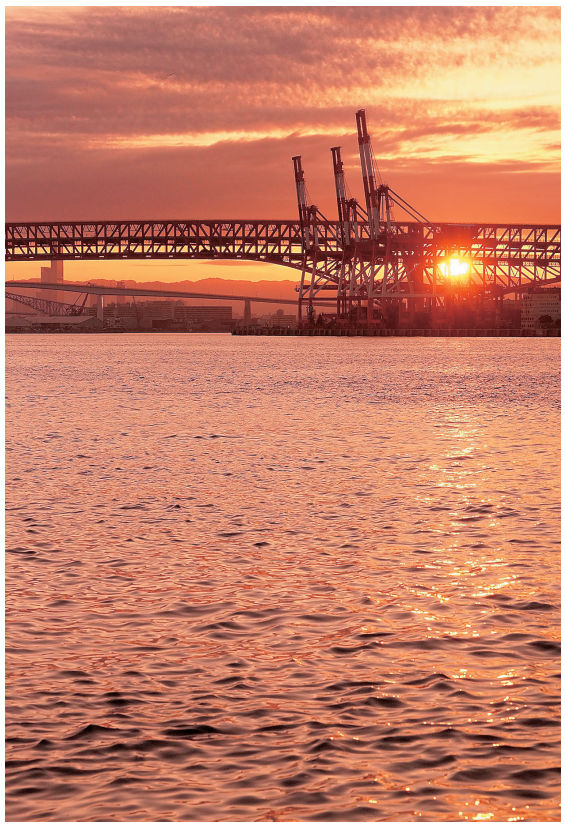
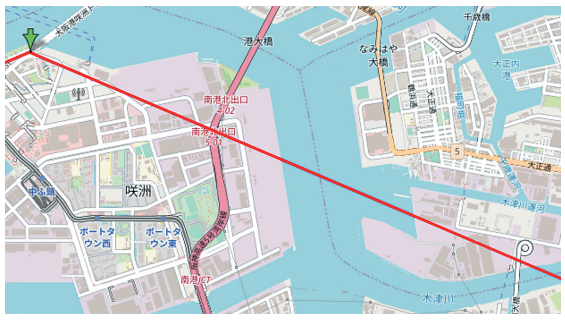
府医ニュース新年号１面写真について 撮影諸元やロケ地紹介（３）

本紙第3024号（１月18日付）、第3029号（３月１日付）で、令和５年新年号１面の写真に選定された“撮像子”氏からの撮影諸元・ロケ地などの寄稿を掲載した。同氏の写真は、平成29年、30年、令和２年、３年、５年と計５回、府医ニュース新年号のトップを飾っている。最終回は、平成29・30年の作品を振り返っていただいた。





平成29年写真・撮影諸元
SONY α99　70-400mmGSSM Ⅱ
WB　K9000　絞F9　露出1/200
補正＋0.7　ISO　2000

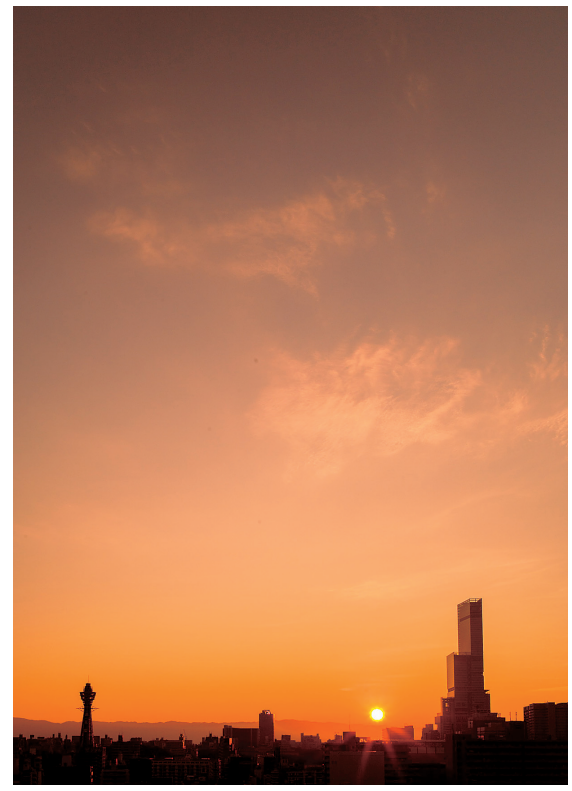
ハルカスと通天閣の間に日昇を狙った。生駒遠望ができる最適のロケ地が、なにわ生野病院様であり、特別のご厚意をもって最上階のベランダからの撮影許可を得た。理事長先生が写真のご趣味があってこそ、とあらためて感謝申し上げる。

これがお世話になった最初である。大阪なら八百八橋、それらが重なり、かつ日出を捉えることが可能な場所を探査し、数カ所から選定したのが南港の突端である。手前から阪神高速湾岸線港大橋、なみはや大橋、千歳橋を通して生駒山とハルカスが遠望できる絶好のポジションである。コンテナクレーンが商都を象徴する。

一陽来復 すべての会員諸氏に

なんらかの制限、このような業界紙の新年号の表紙、それもめでたく、大阪を象徴する題材、という制限ならば日昇であろう。これほど写欲を励起させることはない。さらに、写真そのものに会長先生の年頭教書を編み込むスペースを作画する、これまた好適な制限である。制約充足問題、という数学のアルゴリズムを持ち出す前に、制約は多く複雑な方が解は導きやすい。写真は瞬間芸、と申し上げた。しかし、その瞬間を計画する過程にさく時間、テマヒマも面白い。お日様は決められた時間、決められた方角からしか登らないのだ。一陽来復という言葉がある。お天道様の絶対的理力がすべての会員諸氏に。

撮像子



平成30年写真・撮影諸元
LEICA　M9　エルマリートM28mmASPH
WB　K8700　絞F11
露出1/250　補正0.0　ISO　160

大阪府庁前から３万人が順次スタート

複数の招待選手が大会新記録を出す躍動ぶり

大阪マラソン2023

府医・大阪臨床整形外科医会など 大会の医療救護を全面サポート！

大阪府医師会からは会委員に高井康之会長が就任しており、医事・救護専門部会には前川たかし理事（健康スポーツ医学担当）が副委員長として参画。今大会、救護本部をはじめ、▽18救護所▽収容バス▽メディカルランナー▽沿道でのAED隊――などを編成した。

なお、府医から22人、大阪臨床整形外科医会（藤本啓治会長）からは50人の医師が救護所等の出務に協力。広範囲に及ぶサポート体制を組み、参加ランナーが安心・安全に参加できる環境づくりに寄与した。

そのほか、大阪陸上競技協会所属の医師、看護師やトレーナー、大勢のボランティアスタッフの支えの中で、ランナーおよび観客約110万人の救護や搬送支援が行われた。前川理事はマラソン当日も救護副本部長として出務した。

新型コロナ対策重視 重症者等の報告はなし

今回は、まだ新型コロナが収束していない冬場の大会であったため、参加ランナーには受け付け時に健康管理表の提出を義務付けた。また、大会当日も検温を行うなどの厳重な感染症対策を実施。37・5度以上の発熱や体調不良の方には参加自粛を求めていた。

各救護対応件数は、救急搬送14件、救護所利用は684件、またAED使用は1件あったが、重傷・死亡に至った報告はなく大会は無事に終了した。

近年、健康意識の向上からスポーツ熱も高まる中で、各種イベントなどに日本医師会認定健康スポーツ医の活躍が期待される。

３万人ランナー95・3％が完走

第11回大会となる「大阪マラソン2023」が2月26日、晴天に恵まれた中で開催された。

過去2回は新型コロナウイルス感染症の影響で、20年大会は中止、びわ湖毎日マラソンと統合された22年大会は、国内の招待選手らによるエリート部門のみの規模を縮小した大会となっていた。3年ぶりに一般ランナーも参加した今大会は、大阪府庁前をスタートし、42・195㌔の大阪城公園内のフィニッシュ地点を目指したコース設定。男子11人・女子5人が大会新記録を出し、完走率が95・3％とすばらしい結果となった。

毎大会に50人もの会員を派遣する大阪臨床整形外科医会

救護本部　写真左上は前川理事（副本部長）